



## 年縞博物館 —— 日本博物館協会賞の栄誉

公益財団法人日本博物館協会から、「第2回日本博物館協会賞は福井県年縞博物館に決定」という知らせを受けました。

年縞博物館は2018年9月に開館、発足してまだ2年半ですが、水月湖の「年縞」の研究成果だけを伝える小さな博物館です。しかし、全国5738館（文化庁による）から日本のNo.1の博物館に選ばれたことは、福井県にとって大きな誇りとなりました。日本博物館協会はこの賞の受賞条件を、「日本の博物館の振興に大きく貢献、他の博物館の模範となる顕著な成果を挙げていると認められる国内施設」と記しています。

水月湖の年縞の最初の掘削は1991年でしたが、中川毅さん（現・年縞博物館研究マネージャー、立命館大学教授）によって7万年分、45mの完全な年縞を得ることができたのはその15年後の2006年のことでした。水月湖の年縞は日欧の科学者たちによって科学的な解析が進み、2013年には年代決定のモノサシの世界標準に初めて採用されました。また、縞々に残されている花粉の分析によって過去7万年間の気候変動も解き明かされています。

年縞博物館は単にその年縞の現物展示にとどまらず、来館者に対してナビゲーターが年縞科学者たちの知恵と技術を駆使した取り組み、さらに最新の研究成果をていねいに説明しています。博物館は「モノとコトの発信施設」と言われていますが、年縞博物館はそれに加えて年縞研究者という「ヒト」の情熱や挑戦を、ナビゲーターという「ヒト」が熱く語り伝えている点も、受賞理由だったのではないかと思います。

45m、7万年分の年縞が残されていた水月湖は世界でも例がない「奇跡の湖」と呼ばれてきましたが、年縞博物館が全国の5738館からNo.1に選ばれたことは「奇跡の湖」にふさわしい栄誉です。今後も来館者の皆さんがより深い理解と感動が得られる場としての充実をはかっていきたいと気を引き締めています。

やまね かずま

福井県年縞博物館 特別館長 **山根一真**